

ロジスティクス環境会議
第4回共通基盤整備委員会

2004年9月9日(木)14:00~16:00
(社)日本ロジスティクスシステム協会 会議室

次 第

1. 開 会

2. 議 事

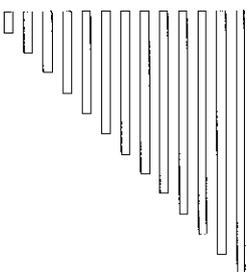
- 1) 用語集について
- 2) アンケート調査について
- 3) その他

3. 閉 会

【配布資料】

- 資料1-1 : 環境物流用語選定・定義におけるオープンリソース手法の活用
- 資料1-2 : 環境物流用語選定・定義におけるオープンリソース手法の活用 (要旨)
- 資料2-1 : アンケート調査の概要
- 資料2-2 : アンケート調査票の構成 (案)
- 参考資料1 : アンケート調査票 (イメージ)
- 参考資料2 : ニュースとジャーナルの基本的な枠組み
- 参考資料3 : 各委員会の活動状況
- 参考資料4 : リンク集
- 参考資料5 : 共通基盤整備委員会の活動計画
- 参考資料6 : 第3回委員会議事録

以 上



環境物流用語選定・定義におけるオープンソース手法の活用

鈴木邦成(文化女子大学)
津久井英喜(諏訪東京理科大学)
中村壺吾・野澤彰治郎(実践ロジスティクス研究会)
武内章(LEC東京リーガルマインド大学)



研究の背景

- 『基本ロジスティクス用語辞典』などの物流用語辞典には環境ロジスティクスに関連する用語説明が少ない
- これまで定義されている用語でも環境共生の視点を導入しての定義付けが行われるべき時期に来ている
- JILS助成金により環境物流用語の選定・定義確定の研究に着手
- 出版物ではグローバル環境、規制緩和などの流れに迅速に対応することが容易ではない⇒Web上で用語定義の議論・検討システムの導入を研究



発表要旨

- 欧米ではIT革命以降のパソコン環境の充実の中でオープンリソース、マルチリーダーシップマネジメント、プロダクト・データ・マネジメントなど、新製品の開発等において担当者たちの独自性、自主性を尊重するマネジメント手法が発達した
- JILS助成金を受けて同様の手法を用いての物流関連の環境用語の選定、定義付け等にあたった成果と意義について報告することとする



(参考)オープンリソース手法による事例

グーグル(Google)

- グーグルは一九九八年にシリコンバレーで創業された。二人の創業者はスタンフォード大学の学生
- インターネット上に散在する膨大な情報を検索するため斬新な方式を開発し、その能力をネット上に無償公開
- 「採用と技術」を標榜(ひょうぼう)し、最優秀な人材のみを選び抜いて採用。「社内には三人一組のチームがたくさん存在するだけで、管理職は不在、その代わり情報共有ツールだけは最先端システムを導入する」というマルチリーダーシップ型の組織
- その他の事例:リナックス、デルなど



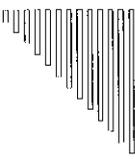
日本物流学会JILS研究助成・研究要旨(1)

- これまで「環境に配慮した物流・ロジスティクス」に関する用語は、一部のケースを除いて、内外ともに各人各様に作られ、使われてきた
- 循環型ロジスティクスに対する物流・ロジスティクス用語辞典／事典での取り扱い・対応も、明らかに配慮を欠いていると言わざるを得ない
- 例えば、現在最も完成度の高い『基本ロジスティクス用語辞典(第2訂)』(2002年3月刊)では関連用語が89語採択されているが、当研究グループでは“事前検討”からアイドリングストップ、ロードプライシングなど20語以上が不足していると推定してきた



日本物流学会JILS研究助成・研究要旨(2)

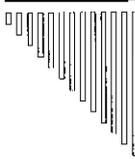
- 循環型ロジスティクスの広範な学術的研究を展開し、これらの不足用語を的確に追補したうえで、内外の基本文献での使われ方を収集し検討を重ね、概念規定を進める上で不可欠な「概念規定案(=たたき台)」を作成
- 最終的には、これらの結果をすべてweb上に公開することで、学会会員の衆知を集める研究基盤を作り上げる
- “循環型社会”で物流・ロジスティクスが果たす役割を考えると、関連用語の的確な収集とその検証、および厳密な定義の確定は、この分野で指導的役割を果たしている学会、JILSにとって緊急を要する重要課題であると考えている



環境用語選定・定義における課題(1)

・例1: グリーンロジスティクス

物流事業者、荷主企業、消費者などにより捉え方は異なる。それぞれの視点を踏まえての定義付けが必要。また規制緩和の流れを見定めながら定義を常にリニューアルする必要有



環境用語選定・定義における課題(2)

例2: ロードプライシング

現在・・・シンガポール、英国などで導入
日本でも導入の議論有

現在のロードプライシングの定義はあくまで諸外国の事例をベースにしたものなので、たとえば東京都が日本の特殊事情、ローカル事情などに合わせて「日本式ロードプライシング」を導入した場合、新たな定義付けが必要となることは明らか。また定義をいったん確定しても、ドッグイヤーといわれるIT環境などの急展開や規制緩和の進捗状況に合わせて、常に定義を更新していく必要もある

・例3: CO2排出量取引

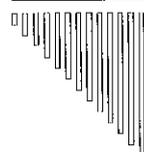
2005年1月にはEU統一市場が誕生。日本の法整備などは2005年から開始。2007年以降の国際取引の本格化も踏まえて定義は今後、数年間で何度も更新していく必要がある



研究の概要(1)

(1)資料の収集範囲:

- ①専門書については、日・米・欧の物流・ロジスティクスの標準的な専門書(但し、英・独文に限る)
- ②定期刊行物については、日本物流学会誌、ロジスティクスシステム、輸送展望、日本物流年鑑、カーゴニュース、Journal of Business Logistics、International Journal of Logistics Managementなど、国内外数誌のバックナンバー
- ③環境問題を扱った代表的な専門書・専門雑誌



研究の概要(2)

- ④官公庁が発表している白書、報告書の類
- ⑤業界団体・財団が発表している報告書の類
- ⑥企業が発表している環境報告書など
- ⑦生産・マーケティング・流通などの隣接領域における代表的な専門書・専門雑誌
- ⑧その他(会社案内、カタログなど)



研究の概要(3)

- (2)用語の収集: (1)から「用語カード(用語、使用例、定義案)」を作成し、データベース化

- 公開: web上で行い、オープンリソース・マルチリーダーシップの手法を用いて用語定義の精練を推進



Web上における用語集解説検討用掲示板の構築(1)

(1)掲示板の概要

用語解説検討用掲示板

(<http://www.sugito.com/cgi-bin/cbbs/cbbs.cgi>)

はNPO法人すぎとSOHOクラブの協力を得て、以下の形式のように検討メンバーのみの公開を原則にセキュリティ認証をかけ、所定のユーザー名とパスワードを入力後、閲覧できるようになっている。

(ユーザー名⇒ XXXXXXXX

パスワード⇒ XXXXXXXX)



Web上における用語集解説検討用掲示板の構築(3)

- また、管理者用ページもセキュリティ認証のもとに閲覧が可能なかたちとなっている。ユーザー名とパスワードを入力後、閲覧できる。
ユーザー⇒ XXXXXXX
パスワード⇒XXXXXXXX

<http://www.sugito.com/cgi-bin/dictionary/adm/admin.cgi>

- なお、Web上の掲示板はJILSのサブドメインの中に組み込まれるかたちで構築されている

環境型ロジスティクスに関する用語集(用語解説検討用掲示板)

HOME	HELP	新規作成	新規記事	ツリー表示	スレッド表示	用語表示	検索
------	------	------	------	-------	--------	------	----

- このサイトで用語解説の検索して下さい。
- 168時間以内で作成されたスレッドは  で表示されます。
- 168時間以内に更新されたスレッドは  で表示されます。

[全232スレッド(1-5 表示)] << 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40 | 41 | 42 | 43 | 44 | 45 | 46 >>

[更新順 / 投稿順 / レス数] ←ノート方法変更

図1: 「用語解説検討用掲示板」

(2) 定義決定の進捗状況の把握

記事リスト()内の数字は記事数

ロードライティング(4) | 環境会計(2) | ゼロエミッション(1) | かんばん方式(1) | 拡大生産者責任(1) |
 エコカルリデュクサックス(1) | エコシティ(1) | 3R物流(1) | プロダクトライフサイクル(1) | 自動車税
 のグリーン化(1) | 環境法(1) | カスケードリサイクル(1) | グリーンエンシューマー(1) | 機密(1) | 有害
 廃棄物の越境移動(1) | 返品(1) | トレーサビリティ(1) | アイリングストップ(0) | 地球温暖化(0) | 地下水
 汚染(0) | タンボール(0) | 炭素税(0) | 多品種少量多頻度物流(0) | 大都市物流(0) | 大深度地下利用(0)
 大気汚染(0) | ダイオキシン対策(0) | 粗大ゴミ(0) | 速度ミッター(0) | ソーラーカー(0) | 総合情報
 物流拠点(0) | 騒音対策(0) | 生分解プラスチック(0) | 製品物責任(0) | スピードミッター(0) | ス
 パイクタイプ粉塵対策(0) | 新品原料(0) | 新総合物流施策大綱(0) | 情報物流(0) | 使用済み物資(0) |
 消費者包蔵(0) | 省資源(0) | 廃材処分(0) | 省エネルギー(0) | 循環型社会(0) | 修繕・修理(0)

図2：「用語検索記事リスト」

用語の選定・議論

- 検討メンバーは用語タイトルを自ら作成することが可能である
- 他のメンバーの作成した用語を別のメンバーが自由に修正、議論を行うことも可能である
- 用語タイトルとその記事数、用語作成者、最終発言者、最終更新状況についてもウェブ上で確認できる

用語タイトル	記録数	用語作成者	最終発言者	最終更新	備考
ロードプライシング L#157 【作成:03/29(Mon) 09:16】	5	中村奎吾 [[ID:cj196116]]	鈴木邦成 [[ID:cj196898]]	07/18(Sun) 23:14	
ゴミゼロ工場 L#258 【作成:04/15(Thu) 23:41】	1	鈴木邦成 [[ID:cj196898]]	鈴木邦成 [[ID:cj196898]]	04/15(Thu) 23:41	
エコロジカル・リュックサック L#247 【作成:04/10(Sat) 12:57】	2	中村奎吾 [[ID:cj196116]]	鈴木邦成 [[ID:cj196898]]	04/15(Thu) 23:37	
グリーン調達 L#255 【作成:04/15(Thu) 23:27】	1	鈴木邦成 [[ID:cj196898]]	鈴木邦成 [[ID:cj196898]]	04/15(Thu) 23:27	

図3：用語タイトルと作成者

定義の決定過程

- 各用語の定義は、用語タイトル作成者のたたき台を二人目以降の発言者が修正、改正するなかで仕上げていくというオープンソース手法を採用する
- 特に定義を決定する責任者、担当者を設定することなく、自発的、かつ自由に掲示板の中で発言し、用語の意味内容を決定していくマルチリーダーシップが基本とされている

第157 / inTopicNo.1 | **ロードプライシング**
▼

□投稿者/ 中村聖吾 (2004/03/29(Mon) 09:16:07) [ID:47488]

道路渋滞対策として、都心部や混雑時間帯での自動車利用に、特別な料金を課して交通量を削減する手法。ロンドンで実施して18%乗り入れが減少した。

2004年3月(読売新聞記事)

第250 / inTopicNo.2 | **第157 | ロードプライシング**
▲ ▼

□投稿者/ 鈴木邦成 (2004/04/15(Thu) 02:24:03) [ID:49889]

特定の区域や道路などで自動車の移動に対して課金、制限を加える制度。都市交通の混雑を緩和する。貨物輸送効率の向上を促す。環境にもやさしい。シンガポールではロードプライシングのIT情報武装を強化。電子的に料金徴収を行う電子ロードプライシングシステムを導入。時間帯、混雑状況に応じて課金額が変動。道路容量とそれに見合った交通量のバランスを完全にコントロールできる。

図4：用語定義のプロセス



発言の方法・記録・更新の過程

- 各作成タイトルについての意見などは掲示板の所定のフォームに従うかたちで行うことが可能となっている
- なお前発言者の定義は「貼り付け」で最新発言者が紹介しながら修正することも、全く別途に新しい定義を作成しても構わない
- ただし発言記録は常に残るので以降の発言者、閲覧者にもその更新の過程は詳細に把握できることになる

この項目は必須です

姓 / [DcIBHNY8]

名 /

〒 関連する記事をメールで受信しますか? NO / アドレス 非公開

住所 / Rd51 ロードファイティング

URL / http://

検索ボックス: 用語解説の検索が終了したらチェックしてください

プレビュー 戻る

図5：用語書き込みフォーム

(参考)オープンソース手法による事例

グーグル(Google)

- グーグルは一九九八年にシリコンバレーで創業された。二人の創業者はスタンフォード大学の学生
- インターネット上に散在する膨大な情報を検索するため斬新な方式を開発し、その能力をネット上に無償公開
- 「採用と技術」を標榜(ひょうぼう)し、最優秀な人材のみを選び抜いて採用
- 「社内には三人一組のチームがたくさん存在するだけで、管理職は不在、その代わり情報共有ツールだけは最先端システムを導入する」というマルチリーダーシップ型の組織
- その他の事例: リナックス、デルなど



まとめ (1)

- 環境物流用語選定・定義確定までのプロセスをWeb上に公開するオープン・リソースの手法を採用することで、実務・実体と乖離しないかたちでリアルタイムの用語定義確定が可能

- マルチリーダーシップを活用することで用語の定義が洗練される。一人のオーソリティが全体を統括し、用語を決めるのではなく、全員が責任と情報を共有し、各自の得意分野、専門分野を生かしながら環境物流用語の選定・定義確定を行うことができる



まとめ (2)

- 地球環境、IT環境、環境テクノロジー、経済グローバル化、規制緩和の流れなどの激しい変化、進化に合わせたかたちでの定義付けが可能

- 書籍では最新の状況に合わせた定義付けを行うことが容易ではない。出版決定～執筆～編集～出版までの間に定義にブレが生じる可能性が高い。しかし、Webを活用することでそのリスクを回避できる

2004年度日本物流学会全国大会研究報告要旨

論題：環境物流用語選定・定義におけるオープンリソース手法の活用

A Study of the Definition of the Terms of Green Logistics

鈴木邦成（文化女子大学）、津久井英喜（諏訪東京理科大学）、中村奎吾・野澤彰治郎（実践ロジスティクス研究会）、武内章（岐阜県産業経済センター）

発表要旨

欧米ではIT革命以降のパソコン環境の充実の中でオープンリソース、マルチリーダーシップマネジメント、プロダクト・データ・マネジメントなど、新製品の開発等において担当者たちの独自性、自主性を尊重するマネジメント手法が発達した。JILS助成金を受けて同様の手法を用いての物流関連の環境用語の選定、定義付け等にあたった成果と意義について報告することとする。

日本物流学会 JILS 研究助成・研究要旨

これまで「環境に配慮した物流・ロジスティクス」に関する用語は、一部のケースを除いて、内外ともに各人各様に作られ、使われてきた。

また、循環型ロジスティクスに対する物流・ロジスティクス用語辞典／事典での取り扱い・対応も、明らかに配慮を欠いていると言わざるを得ない。例えば、現在最も完成度の高い『基本ロジスティクス用語辞典（第2訂）』（2002年3月刊）では関連用語が89語採択されているが、当研究グループでは“事前検討”からアイドリングストップ、ロードプライシングなど20語以上が不足していると推定してきた。

我々は循環型ロジスティクスの広範な学術的研究を展開し、これらの不足用語を的確に追補したうえで、内外の基本文献での使われ方を収集し検討を重ね、概念規定を進める上で不可欠な「概念規定案（＝たたき台）」を作成する。最終的には、これらの結果をすべてweb上に公開することで、学会会員の衆知を集める研究基盤を作り上げる所存である。

“循環型社会”で物流・ロジスティクスが果たす役割を考えると、関連用語の的確な収集とその検証、および厳密な定義の確定は、この分野で指導的役割を果たしている学会、JILSにとって緊急を要する重要課題であると考えている。

研究の概要

（1）資料の収集範囲：

- ①専門書については、日・米・欧の物流・ロジスティクスの標準的な専門書（但し、英・独文に限る）
- ②定期刊行物については、日本物流学会誌、ロジスティクスシステム、輸送展望、日本物流年鑑、カーゴニュース、Journal of Business Logistics、International Journal of Logistics Management など国内外数誌のバックナンバー
- ③環境問題を扱った代表的な専門書・専門雑誌
- ④官公庁が発表している白書、報告書の類
- ⑤業界団体・財団が発表している報告書の類
- ⑥企業が発表している環境報告書など
- ⑦生産・マーケティング・流通などの隣接領域における代表的な専門書・専門雑誌
- ⑧その他（会社案内、カタログなど）

（2）用語の収集：（1）から「用語カード（用語、使用例、定義案）」を作成し、データベース化する。

（3）公開：web上で行い、オープンリソースの手法を用いて用語定義の精練を推進する。

Web 上における用語集解説検討用掲示板の構築

(1) 掲示板の概要

用語解説検討用掲示板 (<http://www.sugito.com/cgi-bin/cbbs/cbbs.cgi>) はNPO法人すぎとSOHOクラブの協力を得て、以下の形式のように検討メンバーのみの公開を原則にセキュリティ認証をかけ、所定のユーザー名とパスワードを入力後、閲覧できるようになっている。

(ユーザー名⇒ XXXXXXXX パスワード⇒ XXXXXXXX)

また、管理者用ページもセキュリティ認証のもとに閲覧が可能なかたちとなっている。ユーザー名とパスワードを入力後、閲覧できる。

ユーザー⇒ XXXXXXX

パスワード⇒XXXXXXX

<http://www.sugito.com/cgi-bin/dictionary/adm/admin.cgi>

なお、Web 上の掲示板は JILS のサブドメインの中に組み込まれるかたちで構築されている。(図 1 参照)

環境型ロジスティクスに関する用語集(用語解説検討用掲示板)

HOME	HELP	新規作成	新着記事	ツリー表示	スレッド表示	用語表示	検索
------	------	------	------	-------	--------	------	----

- このサイトで用語解説の検討をして下さい。
- 168 時間以内に作成されたスレッドは  で表示されます。
- 168 時間以内に更新されたスレッドは  で表示されます。

[全 232 スレッド(1-5 表示)] << 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 40 | 41 | 42 | 43 | 44 | 45 | 46 >>

[更新順 / 投稿順 / レス数] ←ソート方法変更

図 1 : 「用語解説検討用掲示板」

(2) 定義決定の進捗状況の把握

また、用語の定義議論の進捗状況については以下の記事リストを参照に逐次、確認することができる。(図 2 参照)

記事リスト ()内の数字はレス数	
 ロードプライシング(4)	 環境会計(2)
 ゼロエミッション(1)	 かんぱん方式(1)
 拡大生産者責任(1)	 エコロジカル・リユクサック(1)
 コンパクトシティ(1)	 3E物流(1)
 プロダクト・ライフサイクル(1)	 自動車税のグリーン化(1)
 環境法(1)	 カスケード・リサイクル(1)
 グリーン・コンシューマー(1)	 横持ち(1)
 有害廃棄物の越境移動(1)	 返品(1)
 トレーサビリティ(1)	 アイドリングストップ(0)
 地球温暖化(0)	 地下水汚染(0)
 ダンボール(0)	 炭素税(0)
 多品種少量多頻度物流(0)	 大都市物流(0)
 大深度地下利用(0)	 大気汚染(0)
 ダイオキシン対策(0)	 粗大ごみ(0)
 速度リミッター(0)	ソーラーカー(0)
総合静脈物流拠点港(0)	騒音規制(0)
生分解プラスチック(0)	製造物責任法(0)
スピードリミッター(0)	スパイクタイヤ粉塵対策(0)
新品原料(0)	新総合物流施策大綱(0)
静脈物流(0)	使用済み物質(0)
消費者包装(0)	省資源(0)
焼却処分(0)	省エネルギー(0)
循環型社会(0)	修繕・修理(0)

図 2 : 「用語解説記事リスト」

検討メンバーは用語タイトルを自ら作成することが可能である。また他のメンバーの作成した

用語を別のメンバーが自由に修正、議論を行うことも可能である。用語タイトルとその記事数、用語作成者、最終発言者、最終更新状況については図3のように知ることができる。

用語タイトル	記事数	用語作成者	最終発言者	最終更新	END
ロードプライシング L#157 [作成:03/29(Mon) 09:16]	5	中村奎吾 [[ID:c]T6U]16]	鈴木邦成 [[ID:c]B8BNYS]	07/18(Sun) 23:14	
ゴミゼロ工場 L#258 [作成:04/15(Thu) 23:41]	1	鈴木邦成 [[ID:c]B8BNYS]	鈴木邦成 [[ID:c]B8BNYS]	04/15(Thu) 23:41	
エコロジカル・リュックサック L#247 [作成:04/10(Sat) 12:57]	2	中村奎吾 [[ID:c]T6U]16]	鈴木邦成 [[ID:c]B8BNYS]	04/15(Thu) 23:37	
グリーン調達 L#255 [作成:04/15(Thu) 23:27]	1	鈴木邦成 [[ID:c]B8BNYS]	鈴木邦成 [[ID:c]B8BNYS]	04/15(Thu) 23:27	

図3：用語タイトルと作成者

(4) 定義の決定過程

各用語の定義は、用語タイトル作成者のたたき台を二人目以降の発言者が修正、改正するなかで仕上げていくというオープンソース手法を採用する。特に定義を決定する責任者、担当者を設けることなく、自発的、かつ自由に掲示板の中で発言し、用語の意味内容を決定していくマルチリーダーシップが基本とされている。(図4参照)

■ 157 / inTopicNo.1) **ロードプライシング** ▼

□投稿者/ 中村奎吾 -(2004/03/29(Mon) 09:16:07) [[ID:c]T6U]16]

道路渋滞対策として、都心部や混雑時間帯での自動車利用に、特別な料金を課して交通量を削減する手法。ロンドンで実施して18%乗り入れが減少した。
2004年3月(読売新聞記事)

■ 250 / inTopicNo.2) **L#157) ロードプライシング** ▲▼

□投稿者/ 鈴木邦成 -(2004/04/15(Thu) 02:24:03) [[ID:c]B8BNYS]

特定の区域や道路などで自動車の移動に対して課金、制限を加える制度。都市交通の混雑を緩和する。貨物輸送効率の向上を促す。環境にもやさしい。シンガポールではロードプライシングのIT情報武装を強化。電子的に料金徴収を行う電子ロードプライシングシステムを導入。時間帯、混雑状況に応じて課金額が変動。道路容量とそれに見合った交通量のバランスを完全にコントロールできる。

図4：用語定義のプロセス

(4) 発言の方法・記録・更新の過程

各作成タイトルについての意見などは掲示板の所定のフォームに従うかたちで行うことが可能

となっている。なお前発言者の定義は「貼り付け」で最新発言者が紹介しながら修正することも、全く別途に新しい定義を作成しても構わない。ただし発言記録は常に残るので以降の発言者、閲覧者にもその更新の過程は詳細に把握できることになる。(図5参照)

この用語に書き込む

Name / [ID:cJBHBNY8]

E-Mail /

↳ 関連するレス記事をメールで受信しますか? / アドレス

Title /

URL /

Comment / (意図に改行して下さい/半角 20000 文字以内)

別添え / (半角 8 文字以内)

終了! BOX / 用語解説の検討が終了したらチェックしてください!

図5：用語書き込みフォーム

アンケート調査の概要について

1. 目的

- 1) セミナー企画に対する CGLメンバーのニーズの把握
- 2) その他
 - (1) CGLジャーナルの掲載内容に対するニーズの把握⇒参考資料 2 参照
※広報・普及専門委員会の企画・編集
 - (2) 環境活動を推進するための支援策に対するニーズの把握
※メンバーが行政ならびに J I L S に行つて欲しい支援策等の内容

2. 調査の方法

アンケート調査票はエクセルファイルにて作成し、メール添付形式で該当者に送信し、同ファイルを事務局までメール添付形式で返信いただく。

3. 調査結果の活用

セミナーに関する調査結果については、セミナーの内容、講演者を検討する材料とする。

4. 第 1 回セミナー開催日

2005年2月中旬(予定)

※メンバーに対する開催案内の通知は1月上旬(予定)

※第2回セミナーは2005年度中に開催

5. スケジュール

	2004年				2005年		
	9月 第4回 9/9(木)	10月	11月 第5回 11/下旬	12月	1月 第6回 1/下旬	2月	3月
■委員会開催							
1. 調査票の作成							
1) 調査概要等の検討と確認 ・調査概要と調査票の構成	■						
2) 調査票の検討と確認※ ¹ ・設問内容等含む調査票の完成版	■						
2. 調査票の発信と回収 ・電子メール活用		■					
3. 調査結果の整理 ・セミナー企画の検討			■	■			
4. セミナー案内の作成と発送 ・PDFファイルと電子メール活用				■			
5. セミナー開催						■	

※¹ 正副委員長ミーティングを中心に行い、作成した調査票案はメールにて各委員に配信し、確認していただく。

アンケート調査票の構成（案）

1. アンケート調査の依頼文（委員長名による発信）

1) 趣旨と依頼分

2) 概 要

- ・ 主な内容
- ・ 調査対象
- ・ 回答期日
- ・ 回答方法
- ・ 問合せ先

2. アンケート調査票

1) 設問 1

セミナーの内容について

2) 設問 2

CGLジャーナルの内容について

3) 設問 3

支援策の内容について

4) その他

以 上

アンケート調査票のイメージ

2004年10月1日

ロジスティクス環境会議（CGL）
委員会メンバー各位

ロジスティクス環境会議（CGL）
共通基盤整備委員会
委員長 津久井 英喜

ロジスティクス環境会議
アンケート調査に関するご協力をお願い

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、共通基盤整備委員会では、ロジスティクス環境会議（以下、CGL）及び各委員会の円滑かつ効果的な活動を支える共通的な「情報資源」を整備し、公開することを活動目的としておりますが、委員会活動の一貫として、CGL全メンバーを対象としたセミナー等を開催することになっております。

つきましては、セミナーの企画にあたり、メンバー各位のご意見をいただくため、アンケート調査を行わせていただければ幸いです。

また、上記セミナーに加え、CGLメンバーが環境活動を推進するうえで、必要な情報提供の内容及び必要な支援策等の視点からもご意見をいただき、今後のCGL活動の充実化に向け、参考にさせていただきたく存じます。

つきましては、ご多忙の折り大変恐縮ですが、趣旨ご理解いただき、アンケート調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. アンケート調査の主な内容

- 1) セミナーのテーマや内容について
- 2) CGLメンバーに対する定期的な情報提供の内容について

※主にCGLジャーナルにて情報提供する内容：年4回発行予定（冊子）

CGLジャーナルは、登録メンバーの役員、部長クラス（代表登録者）の方が、各委員会の活動内容の定期的な把握と他業界の動向や国際動向の把握を目的に情報収集・発信するものです。

- 3) 各メンバーが環境活動を推進するうえで必要と思われる支援策について

※支援策の主体：行政、JILS

2. 調査の対象 環境会議参加メンバー（110社）

3. 回答期日 2004年11月1日

4. 回答方法 エクセルシートの設問にご回答のうえ、eメールにて御返信ください。

5. 問合せ先 社団法人日本ロジスティクスシステム協会
人材普及開発部 普及振興G 遠藤、小川、佐藤
TEL.03-3432-3291 FAX.03-3432-8681 Email ogawa@logistics.or.jp

以 上

設問1：セミナーでお聞きになりたい内容についてお伺いします。

Q1 どのような内容に関心がありますか。関心がある内容を以下の選択肢の中から選び、○印をご記入ください。(複数可)

1. 環境パフォーマンスに関する内容

⇒「1」を選択された方は、以下のどのような内容に関心がありますか。関心がある内容を以下の中から選び、○印をご記入ください。(複数可)

- 1) 標準的な算定手法の動向
- 2) 算定するために必要なデータ項目とその収集方法
- 3) 算定ツールの紹介
- 4) 海外における算定の状況
※特に知りたい地域や国名 ()
- 5) その他 ()

2. 企業および複数企業間の環境負荷低減活動に関する内容(企業事例)

⇒「2」を選択された方は、以下のどのような内容に関心がありますか。関心がある内容を以下の中から選び、○印をご記入ください。(複数可)

- 1) 荷主企業の物流部門、物流企業の環境負荷低減の取組み事例
- 2) 複数企業間で環境負荷低減を目的とした物流サービス条件の変更等の事例
- 3) モーダルシフトの推進事例
- 4) 共同物流の推進事例
- 5) その他 ()

3. リユース、リサイクル等のリバースロジスティクスに関する内容

⇒「3」を選択された方は、以下のどのような内容に関心がありますか。関心がある内容を以下の中から選び、○印をご記入ください。(複数可)

- 1) 関連する法規制(リサイクル法含)に関する動向
※特に知りたい業界や製品、内容 ()
- 2) 企業又は企業間の取組み事例
※特に知りたい企業名と取組み ()
- 3) 海外における状況
※特に知りたい内容と地域や国名 ()
- 4) その他 ()

4. 京都議定書や地球温暖化対策推進大綱などのポイントと今後の動向

5. その他

設問2：CGLジャーナル等で情報提供して欲しい内容についてお伺いします。

Q2 どのような内容に関心がありますか。関心がある内容を以下の選択肢の中から選び、○印をご記入ください。(複数可)

1. 関係行政機関の施策動向

具体的な内容：例) 関係各省が行っている助成金等の支援策の内容

2. 関連団体の活動状況

具体的な内容：例) A業界における環境パフォーマンスの算定状況

3. 海外の関係機関等の国際動向

具体的な内容：例) 欧州における環境に関する規制の動向

4. 関連技術開発の動向

具体的な内容：例) リバースロジスティクスにおけるRFIDの活用

5. その他 ()

具体的な内容：

設問3：CGLメンバーが環境活動を推進するうえで、必要と思われる支援策についてお伺いします。

Q3-1 行政等の公的機関から産業界に対して、支援して欲しい内容を以下の選択肢の中から選び、○印をご記入ください。(複数可)

1. 行政側からの数値目標の義務付け

具体的な例) 京都議定書の削減目標を担保するため、企業に対する数値目標の割当

2. 数値目標は企業の自主的な目標を尊重し、企業の取組みに対するインセンティブの付与

具体的な例) 積極的に取り組んでいる企業に対して表彰状や認定証等の付与

3. 環境パフォーマンスを算定する際に必要なデータの整備

具体的な例) CO₂排出量算定のための複数ある係数の統合やトラックの車各別原単位の精緻化と整備

4. その他 ()

Q3-2 JILSから産業界に対して、支援して欲しい内容を以下の選択肢の中から選び、○印をご記入ください。(複数可)

1. 企業のロジスティクス活動における環境パフォーマンス算定結果の収集と公開

具体的な例) ベンチマークを行うためのデータの整備と自社の活動を促進するため第三者にアピールするための情報公開。但し、初期段階は社名は非公開とし、社名の公開は段階的に実施

2. 企業がロジスティクス活動の環境パフォーマンスを算定するための標準的な手法の整備

具体的な例) 標準的な手法の提案と合意形成の推進

3. 企業のロジスティクス活動を評価するための報告・登録・表彰・認定の実施

具体的な例) 自社の活動を第三者に正しく評価してもらうため、また、社内の意識高揚のための表彰制度や活動を継続に行うための認定制度の実施

4. 企業のロジスティクス活動を継続的に推進する人材育成の体系的な教育プログラムの開発と提供

具体的な例) ロジスティクス活動の環境パフォーマンスを正しく算定・報告できる人材育成プログラムの開発と提供

5. その他 ()

ご回答者 ()

企業・団体名 ()

ご連絡先 TEL.

Email

ご協力いただき、ありがとうございました。

ニュースとジャーナルの基本的な枠組み

【ニュースとジャーナルの発行の基本的な考え方】		
<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースとジャーナルは、CGLメンバーを主な対象として、循環型社会を実現するロジスティクスの構築に取り組む企業を増やすための情報提供を行う。 ・企画及び編集については、広報・普及専門委員会にて行う。 		
分類	ニュース	ジャーナル
名称	CGL NEWS	CGL JOURNAL
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会の登録メンバー（実務担当者） ・137名 	<ul style="list-style-type: none"> ・登録メンバーの役員、部長クラス（代表登録者） ・125名（オブザーバー、特別メンバー含）
編集方針	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動内を定期的に把握するための情報発進 ・把握しておくべき行政（団体）関係の動向の情報収集・発信 ※上記の情報発信は速報性を重視する 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動内を定期的に把握するための情報発進 ・他業界の動向や国際動向を把握するための情報収集・発信 ※業界的視点でわかりやすく解説する
発行頻度	原則1ヶ月1回 ※情報発信すべき内容がある場合は都度発行	4ヶ月1回（3回／年）
容量	A4版1枚程度	A4版4枚程度
媒体	電子メール	冊子
企画・編集と作成	広報・普及専門委員会、事務局	広報・普及専門委員会、事務局 編集アドバイザー：鈴木邦成氏(文化女子大学)、他
基本構成	<ol style="list-style-type: none"> 1.環境会議の活動状況⇒ホームページ情報の確認 2.行政（団体）機関の施策動向 <ul style="list-style-type: none"> ・経済産業省、国土交通省、環境省、農林水産省、その他（関係団体含） 3.その他 	<ol style="list-style-type: none"> 1.環境会議の活動状況 2.関係機関（団体）、国際、技術開発等の動向 <ul style="list-style-type: none"> ・関係行政機関の施策動向 ・関連団体の活動状況 ・海外の関係機関等の国際動向 ・関連技術開発の動向 ⇒上記からテーマを1～2つ程度選択し、掲載する。 3.その他
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースとジャーナルは発行後、ホームページに掲載する(PDFファイル等) ・関連法規の更新等の情報提供⇒企画運営委員会にて出された要望 	

環境会議の目的、目標と各委員会の活動状況について

1. 環境会議の方針

- 1) 目的：循環型社会を実現するロジスティクスの構築 ～個人が変わる、企業が変わる、物流が変わる～
 2) 目標：行政・自治体・大学等の研究機関・関連団体との連携を図りながら、環境と調和したロジスティクス方針・活動を通じて、循環型社会を実現するロジスティクスの構築に取り組む企業を増やす。

2. 各委員会の活動方針と成果

	活動方針	2004年度活動内容	活動状況
1) 環境パフォーマンス評価手法検討委員会	1) ロジスティクス活動の環境負荷を定量的に把握、評価し、環境負荷を低減するため、荷主企業と物流企業等が相互に連携し、標準的な環境パフォーマンスを整備する。 2) 標準的な環境パフォーマンスを広く公開し、関係者に提案する。	アウトプット：データ収集方法ガイド(10月) これから算定したいと考えている企業に対して、算定のために必要なデータおよびその収集方法について、既に算定している企業から抽出、整理し、データ収集方法ガイド(事例集)としてまとめる。	・委員会メンバーの算定状況、算定式とデータ項目を確認。輸送については標準的算定式の方向性を確認。 ・現在、環境パフォーマンス算定の範囲、また算定のために必要なデータの入手方法等を調査中。 ※計算式の標準モデルはLEMSで作成したが、計算式に当てはめるデータの取り方が問題。 標準式：二酸化炭素排出量(kg) = 燃料使用量(l) × 二酸化炭素排出係数(kg/l) 代替式：二酸化炭素排出量(kg) = 輸送量(t・km) × 二酸化炭素排出原単位(kg/t・km)
2) 源流管理による環境改善委員会	1) 循環型社会に対応する企業の社会的責任として、企業間によるロジスティクスの視点から荷主企業の物流・ロジスティクス部門、物流企業として実施すべき事項を検討し、合意形成を図る。 2) 合意された内容はマニュアル形式にまとめ、広く公開し、関係者の環境活動を支援する。	アウトプット：源流管理マニュアル(9月) 荷主企業の物流部門並びに物流企業としてやるべきこと及び対策についてまとめる。 ※荷主企業の物流部門から他部門に関すること等は次のステップでまとめる。	・物流機能毎に管理すべき項目、施策をまとめるため、以下の分科会を構成。 【分科会：1.包装分科会 2.輸送分科会 3.保管・荷役・流通加工分科会】 ・管理項目の洗い出し、整理を行った後、業務プロセス、施策、課題等を洗い出した。 現在、施策、課題を中心に作成中。 ※定量化指標については、パフォーマンス委員会との連携を図り、今後項目として記載したい。
3) 省資源ロジスティクス推進委員会	1) 省資源・省エネルギーの観点から、サプライチェーンを構成する製造業・流通業・物流業等が一体となって物流の環境負荷を低減するため、物流諸活動の事例収集を行い、その結課を関係者に公開する。 2) 課題解決のための方向性をまとめ、関係者に提案する。	アウトプット：企業(間)の各種物流施策の事例集(10月) 荷主企業、物流企業の夫々の立場から共同化、モーダルシフト等の事例集の材料を収集し、整理する。 ※課題等も併せて収集し、次のアウトプットであるガイドラインの頭だしも行う。	・各社から共同化、モーダルシフト等の事例収集の後、業種毎に以下の分科会を構成し、分科会毎に事例の発表を行い、情報を共有した。 【分科会：1.食品・流通分科会 2.機械器具・精密機器分科会 3.素材分科会】 ・当委員会の事例集としては、特に、各企業で検討はされたが実施に至らなかった事例等、今後更に共同化、モーダルシフトを推進する際にポイントになる部分も整理していく。
4) リバースロジスティクス調査委員会	1) ロジスティクスの視点から、今後本格的に必要とされるリユース、リサイクルに関わる物流のあるべき姿を描くために調査活動を行い、その結果を公開する。 2) 消費者における還流管理の促進を含め、リバースロジスティクスの構築が可能となる環境整備を促進するため、関係者に対して提案を行う。	アウトプット：調査報告書(2005年3月) 複数の製品を選定した後、以下のフローで調査し、まとめる。 1.現状 2.あるべき姿 3.改善策 4.提言	・アンケート調査にて調査対象製品を選定し、以下の分科会で具体的な調査テーマを検討中。 【分科会：1.家電・OA機器分科会 2.自動車分科会 3.食品分科会 4.物流分科会】 ・全体会(隔月ペース)を開催する際は、勉強会(メンバーの事例発表が中心)を開催。 ・年2回程度見学会を開催。 ※7月にリサイクル施設の見学を実施。11月北九州エコタウンを見学予定。
5) 共通基盤整備委員会	環境会議及び各委員会の円滑かつ効果的な活動を支える共通的な「情報資源」を整備し、アウトプットは原則全て公開する。	アウトプット： 1) 環境に関する用語集(4月) 2) 行政、自治体、産業界、学界、団体等のリンク集(7月より)	・4月に予定されていた用語集の公開が遅れ、9月より公開(予定)。 ・ロジスティクスに関わる環境URLのリンク集を作成中。8月中旬に公開予定。 ・環境会議全メンバーを対象にしたイベントを行うため、中国の環境事情やCO2削減に向けての課題等を関係各省や業界団体から講演を聞くなど、当委員会メンバーから聞きたいテーマや内容について調査を行い、企画をまとめる

大分類	中分類	小分類	
国際交渉	気候変動枠組条約締約COP3(地球温暖化防止京都会議)		
	京都議定書の概要		
国内対策	京都メカニズム		
	地球温暖化対策推進本 地球温暖化対策推進大綱 部(首相官邸)		概要 本文
行政施策	環境省	<ul style="list-style-type: none"> ・総合環境政策(環境会計、環境報告書、グリーン購入、PRTRな ・地球環境・国際環境協力 ・廃棄物・リサイクル対策 ・大気汚染・自動車対策 	
	経済産業省	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境対策 ・循環型社会形成 ・環境ビジネス振興 ・化学物質対策 	
	国土交通省	<p>国土交通省環境行動計画 国土交通省環境政策の基本的方向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運輸部門環境対策 ・国土と環境を考える委員会 <p>低公害車の開発・普及 —自動車税のグリーン化等による取 物流政策 ・建設リサイクル</p>	
	農林水産省	<ul style="list-style-type: none"> ・環境保全型農業対策室 ・畜産環境対策情報 	
促進策	公募情報	<ul style="list-style-type: none"> ■経済産業省 ■国土交通省 ■環境省 ■農林水産省 ■NEDO 	
3R関連情報	資源有効利用促進法	<ul style="list-style-type: none"> ○法令関係(経済産業省) ○産業構造審議会(経済産業省) <ul style="list-style-type: none"> ・業種別リサイクルガイドライン ・品目別リサイクルガイドライン ○取組状況(製品毎)(経済産業省) ○リサイクル等支援措置(経済産業省) 	
	容器包装リサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ○法令関係(経済産業省) ○分別収集・再商品化実績(環境省) ○実施状況(経済産業省) ○分別収集見込量(環境省) ○(財)日本容器包装リサイクル協会 	
	家電リサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ○法令関係(経済産業省) ○施行状況(環境省) ○再商品化実績(経済産業省) ○家電リサイクルホームページ(経済産業省) ○(財)家電製品協会 	
	自動車リサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ○法令関係(経済産業省) ○(財)自動車リサイクル促進センター 	
	食品リサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ○法令関係(経済産業省) ○再生利用等実態調査結果(農林水産省) ○関連情報(環境省) ○関連情報(農林水産省) 	
	建設リサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ○法令関係(経済産業省) ○施行状況(国土交通省) ○リサイクルホームページ(国土交通省) 	
	バーゼル条約	<ul style="list-style-type: none"> ○法令関係(経済産業省) 	
	グリーン購入法	<ul style="list-style-type: none"> ○法令関係(経済産業省) ○関連情報(環境省) ○グリーン購入ネットワーク 	

統計

・環境統計集(環境省)

参考資料4
2004.9.9

自治体

■主な都道府県(政令指定都市の都道府県)

- ・北海道府
- ・宮城県
- ・東京都
- ・神奈川県
- ・埼玉県
- ・千葉県
- ・愛知県
- ・京都府
- ・大阪府
- ・兵庫県
- ・広島県
- ・福岡県

⇒その他都道府県のURL検索

■政令指定都市

- 札幌市
- 仙台市
- さいたま市
- 千葉市
- 川崎市
- 横浜市
- 名古屋市
- 京都市
- 大阪市
- 神戸市
- 広島市
- 北九州市
- 福岡市

企業・経営

環境報告書

団体

- (社)日本経済団体連合会 エネルギー・環境政策
- (社)全日本トラック協会 環境対策
- (社)日本倉庫協会
- (社)日本物流団体連合会
- (社)日本包装技術協会
- (財)流通システム開発センター
- (財)日本容器包装リサイクル協会
- (社)電子情報技術産業協会 環境・案全部
- (財)家電製品協会
- (社)日本建設業団体連合会 環境会議委員会
- (社)建築業協会 副産物部会
- (社)日本自動車工業会 くるまと環境
- (社)日本電線工業会 物流委員会の環境目標
- 社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会 静脈物流委員会
- 日本チェーンストア協会
- 日本百貨店協会
- 交通エコロジー・モビリティ財団 (グリーン経営)
- (社)全国環境保全推進連合会 (エコアクション21)
- (財)クリーン・ジャパン・センター (リサイクル推進)
- 産廃情報ネット ((財)産業廃棄物処理事業振興財団)
- (社)産業環境管理協会
- (社)全国産業廃棄物連合会 <http://www.zensanpairen.or.jp>
- (財)日本環境協会 <http://www.ieas.or.jp/>

企業・経営

環境報告書((財)地球・人間環境フォーラム)
環境報告書(日経BP)

新聞社・メディア

- 日経BP 環境
- 環境goo
- 環境新聞社
- 日報
- 日本工業新聞

よろず情報

地域環境行政支援情報システム「知恵の輪」
環境技術情報ネットワーク
全国地球温暖化防止活動推進センター
Japan for Sustainability
EICネット

共通基盤整備委員会の活動計画／第2回本会議資料

1. 活動方針

環境会議及び各委員会の円滑かつ効果的な活動を支える共通的な「情報資源」を整備し、アウトプットは原則として全て公開する。

2. 活動内容

- 1) 物流・ロジスティクスの視点から、既存の用語集等には抜けている環境に関する用語を収集し、用語集として整備する。
- 2) 行政、自治体、産業界、学界、団体等の情報を収集、整備する。
 - ・行政、自治体の法制度や規制値、条例、目標値および各種インセンティブ等
 - ・企業の環境報告書（ホームページ・印刷物）
 - ・学界、団体、大学、自治体の研究
 - ・環境に関する書籍
- 3) 環境に関する国際動向（行政、自治体、企業の先進事例等）の調査を行う。
 - ・環境対応の先進諸国や日本企業が進出している中国等についても、大使館や日本の出先機関等から情報を収集、整理した後、海外調査団等による調査を検討※J I L S主催の訪欧・米調査団のミッションに上記内容を盛り込むことも検討
- 4) 先端技術等の動向を把握し、委員会横断的なセミナーや勉強会を開催する。

3. アウトプット(成果)

- 1) 環境に関する用語集・・・・・・・・・・2004年4月より適宜公開
※物流・ロジスティクスの視点から見た環境用語集
- 2) 行政、自治体、産業界、学界、団体等のリンク集・・・2004年7月より適宜公開
- 3) 環境に関する国際動向の調査報告・・・・・・・・適宜実施
※行政、自治体、企業の先進事例等

以 上

ロジスティクス環境会議

第3回共通基盤整備委員会 議事録

I. 日 時：2004年7月8日（木） 16:00～18:00

II. 場 所：東京・港区（社）日本ロジスティクスシステム協会 会議室

III. 出席者：10名

IV. 議 案：

- 1) 共通基盤整備委員会の活動内容について
- 2) その他

V. 開 会

定刻、津久井委員長により、開会が宣された。

VI. 議事の経過

1. 議 事

津久井委員長の司会進行のもと、以下のような議事が行われた。

1) 用語集について【資料2】

鈴木委員（文化女子大）より、インターネットを活用したデモに基づき、書き込み方法、書き込み履歴管理、表示方法など用語集の説明がなされた。

なお、津久井委員長より、予定では3月にはデモを行う予定が諸事情にて遅れており、9月に行われる物流学界での発表が終わった後に、オープンにしていきたい旨の説明がなされた。

【意見交換の主な内容】

【委 員】他の書籍等から言葉を引用した場合、必ず出典を記載する必要がある。

【委 員】定義の確定のタイミングが難しいのではないか。

【委 員】継続的に更新するものであり、従来の印刷物の辞典とは異なる。

【委 員】書き込みが行われたものに対して、誰が確認するのか。

【委員長】当面は現在用語集の作成に携わっている物流学界の5名のメンバーが確認する。

しかし、研究は一定の期間に限られるため、中長的にはJ I L Sがその役割を担うことになるのではないか。

2) リンク集について

事務局より、資料2に基づき、リンク集についての説明が行われ、まずは現在の材料を整理し、J I L SのWEBサイトに早めに掲載していくことが確認された。

3) その他

(1) 関連法規の枠組みについて

参考資料4の枠組みについては、鈴木委員（文化女子大学）を中心に作成することが確認された。

(2) イベントの企画について

環境会議全メンバーを対象にしたイベントを行うため、中国の環境事情やCO2削減に向けての課題等を関係各省や業界団体から講演を聞くなど、当委員会メンバーから聞きたいテーマや内容について調査を行い、企画をまとめることが確認された。

(3) 環境会議全メンバーに対するアンケート調査について

環境活動を促進している企業に対する表彰制度の要望や行政に対する要望など、環境会議全メンバーに対するニーズ調査を行うことが確認された。

以上のような意見交換が行われた後、津久井委員長より、次回委員会にて、セミナー企画、アンケート調査企画について検討する旨の確認がなされた。

2) その他

今後のスケジュールについて

第4回委員会は、以下のとおり開催することが確認された。

■日時：9月9日（木）14－16時

■会場：JILS会議室

2. 閉会

以上をもって全ての議事を終了し、津久井委員長は閉会を宣した。

以上